



男女の間のさまざまな課題に
気づき、私らしい人生を送る
ための書籍を隔月で紹介

仕事と介護

増大する介護負担と介護不安

現在日本で、会社で働きながら介護をしている人は240万人、介護を理由に仕事を辞める人は10万人/年と言われています*1。働き盛りの中高年だけではなく、今まさに職業人生を歩み始めたばかりの若手が介護を抱えながら働いていることも多く、介護と仕事の両立に困っている人が大勢います。

また、2025年を過ぎると、団塊の世代が70歳代後半となり、親の介護に直面する働き手はさらに増えると予想されています。しかも介護をする働き手たちも、以前とは異なり、きょうだいが少ないかたり、単身であったり、共働きであったり、自身が高齢になっていたりするため、介護者一人ひとりにかかる介護の負荷も今までより大きくなると予想されています*2。

現在介護に直面していなくても、将来の仕事と介護の両立に不安を抱いている働き手も大勢います。

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の新課題

介護は突然始まり、先の見通しを立てにくい営みです。女性は「完ぺきな介護をしなければいけない」との責任感や、よい娘、嫁を求める周囲の期待へ応えようとする気持ちから追いつめられることが多く、男性は相談することや周囲に助けを求めることへの不慣れや抵抗感から介護中に孤立し、行き詰まることが多いと言われます。仕事と介護の両立がいよいよできなくなって仕事を辞めて介護に専念する人も増えてきているそうです。

けれども、介護が終わっても介護者の人生は続きます。介護と仕事はどちらかを選択するものではなく、両立できるものにしていかなければなりません。また、介護は多くの人にいずれ訪れるものでもあり、労働力不足も予想されています。いま介護をしている働き手を助けることはもちろんのこと、個人で、会社で、地域社会で、介護と仕事の両立のために準備をしていく必要があります。仕事と介護の両立はワーク・ライフ・バランスの新たな重要課題となっています。

*1…2012年総務省「就業構造基本調査」*2…『介護離職から社員を守る』12-14頁

【役立つ3冊をご紹介します】

※市内図書館&すくらむ21で読めます&借りられます



社員の仕事と介護の両立を推進したい人事担当者、経営者向けの本

『介護離職から社員を守る——ワーク・ライフ・バランスの新課題——』

著：佐藤博樹、矢島洋子 出版：労働調査会 2014年

どうすれば社員が介護を抱え込むことなく仕事と両立できるようになるのか——悩める人事担当者や経営者が考える緒となる一冊。仕事と介護の両立の実態をデータで伝えるとともに、社員の仕事と介護の両立を支援する方法を、事前の情報提供、介護休業・休暇等の制度の見直し、介護に直面した社員に提供する支援、職場全体における柔軟な働き方の推進という4つの視点から解説しています。

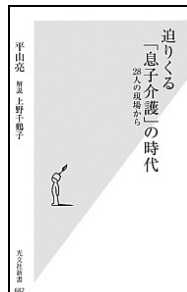


あきらめないで!! 仕事を辞めなくても介護は続けられる!!

『もう限界!! 介護で仕事を辞めないうために読む本』

監修：高室成幸 出版：自由国民社 2012年

仕事を辞めずに介護を続けるための方法や情報、知恵と工夫をまとめた1冊。介護する人が仕事を辞めたら、経済的にも精神的にも行き詰まるリスクが高まります。介護保険サービスや民間サービスの上手な使い方から、家族・親族間での役割分担、職場の人間関係の作り方、介護のための異動・転職の仕方、認知症の場合の対策など、実践的な内容が網羅されています。



身近になってきた「息子による介護」の実態と課題を提示する本

『迫りくる「息子介護」の時代——28人の現場から——』

著：平山亮、解説：上野千鶴子 出版：光文社 2014年

現在、主たる介護者が息子であるケースは、家族介護（同居の場合）全体の12%。長い間「女性の仕事」とされてきた親の介護を男性が行うとき、彼らがどんな気持ちで周囲と関わり、仕事と両立をし、折り合いをつけたりつけなかったりしているのかを丁寧に描いた一冊。息子介護を行っている人や行う可能性のある人、その周囲の人に読んでもらいたい一冊です。

* 絵本の紹介 * だいじょうぶだいじょうぶ

人は誰でも、こどもから大人になって年老いていきます。その間でいくつもの不安や恐怖に出会うものですが、その度に不安の正体を見極めつつそれらを受け入れ、乗り越えて生きていくのだということに改めて気づかせてくれる絵本です。

“ぼく”と“おじいちゃん”のおさんぽが、幼い“ぼく”をゆっくりゆっくり育てていく様子が、静かな独白の形で語られます。その度に、おじいちゃんの「だいじょうぶ、だいじょうぶ」にはいくつもの意味がありました。

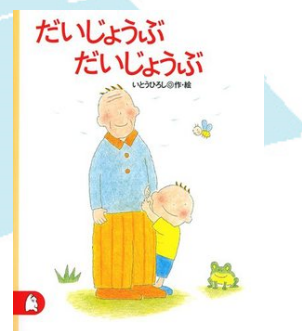
「どうしよう」と思った瞬間に「だいじょうぶ だいじょうぶ」という声を聞くとわけもなく、なぜか、冷静になって落ちつくことができる。いつしかこの不思議な言葉が呪文のように、ぼくにとって「生きる」支えになっていきます。幼かったぼくは世の中のことを受け入れ、理解し、おじいちゃんは年老いて弱っていきます。今度は、ぼくの方から「だいじょうぶ、だいじょうぶ」と声をかけ励ますこととなります。

人間社会のままに世代交代・バトンタッチのひとつの形です。

いじめっ子に会ったとき、道に迷ったとき、誰でもいいから「だいじょうぶ、だいじょうぶ」といってくれる人が傍にいてくれるといいのになあ、という声が聞こえてくるようです。そして、最後は、「もっと もっと、たくさんのひとや どうぶつやくまや きにあいたいな」とおさんぽしたくなる自分がそこにいるのです。黄色、白、青、緑の抑えた色使いでシンプルな絵ですが、登場人物の動きと会話がきこえてくるような絵本です。

折に触れて、身近な町を散歩しながら「このよのなか そんなに わるいことばかりじゃないってことでした」(本文)という言葉をかみしめながら身近な人々にそっと伝えたいと思いませんか。

「だいじょうぶ だいじょうぶ」ってー。



作・絵：いとうひろし
出版：講談社

すくらむ 21 8月・9月の新入荷書籍

※すくらむ 21 で読めます&借りられます。

タイトル	著者	出版社	入荷
もう限界!! 介護で仕事を辞めないために読む本	高室成幸	自由国民社	8/28
ふしぎなたけのこ	松野正子	福音館書店	8/28
職場のLGBT 読本:「ありのままの自分」で働ける環境を目指して	柳沢正和、村木真紀、後藤純一	実務教育出版	8/28
男がづらいよ 絶望の時代の希望の男性学	田中 俊之	KADOKAWA	8/28
タンタンタンゴはパパふたり	ジャスティン・リチャードソン、ピーター・パーネル	ポット出版	9/25
わたしは 13 歳、学校に行けずに花嫁になる	公益財団法人プラン・ジャパン	合同出版	9/25
なぜ、女性が活躍する組織は強いのか? 先進 19 社に学ぶ 女性の力を引き出す「仕組み」と「習慣」	麓幸子・日経 BP ヒット総合研究所編	日経 BP 社	9/25
LGBT問題と教育現場 いま、わたしたちにできること	早稲田大学教育総合研究所	学文社	9/25
教育社会とジェンダー	河野銀子、藤田由美子	学文社	9/25
ドメスティック・バイオレンスと民間シェルター 被害当事者支援の構築と展開	小川真理子	世織書房	9/25

[発行・編集・図書の間い合わせ先]

川崎市男女共同参画センター (愛称:すくらむ 21)

※JR 南武線「武蔵溝ノ口駅」徒歩 10 分

※東急田園都市線・大井町線「溝の口駅」徒歩 10 分

〒213-0001 川崎市高津区溝口 2-20-1

電話 : 044-813-0808

FAX : 044-813-0864

すくらむ 21

検索



携帯はこちらから

